Medical and Pharmaceutical Society for WAKAN-YAKU

Ⅱ－A－6

冠心二号方の血栓防止作用

曄小児科内科
○広田曄子

【目的】冠心二号方は近代において中国でつくられた処方であり，心筋梗塞や脳梗塞といった動脈系の血栓症に有効な処方である。丹参，紅花，川芎，赤芍，降香という活血薬で構成された方剤である。冠心二号方の血液凝固に及ぼす影響をみるために，ＴＡＴ（トロンビン，アンチトロニビンⅢ複合体）を測定した。ＴＡＴは循環血中の凝固能亢進状態を捉える検査としては現在最も有用なものの一つと考えられる。循環血中で生成された微量のトロンビンがアンチトロンビンⅢと等モル比で結合し形成されるもので，トロンビンの生成を間接的に知ることができる検査であり，心筋梗塞や脳梗塞で高値を示す。冠心二号のＴＡＴ値に及ぼす影響を調べることで活血剤の作用機序解明の一助としたい。
【方法】検診のために受診した384例のうち，血漿ＴＡＴが3.0 MCG/L以上の80例を対象とした。既往歴としては，一過性脳虚血発作２例，脳梗塞８例，狭心症９例，下腿血栓症１例，糖尿病８例，高血圧症32例である。男性34例，女性46例，年齢は49歳から86歳までであった。冠心二号方（丹参８g，紅花４g，川芎５g，赤芍５g，降香４g）の水煎液を１日分として，７日以上内服させ，その前後のＴＡＴ値を測定した。T-ch，TG，HDL-ch，Ht，APTT，PT，Fib，についても内服前後で測定し比較した。なお，ＴＡＴは酵素抗体法（ヘキスト社製，エンザイムキットＴＡＴ）によるものである。
【結果】臨床的には３例で歩行の改善，５例で狭心症の消失などがみられた。８例を除いて72例は服用後のＴＡＴ値は服用前の値以下であった。服用後のＴＡＴ値は服用前の値より有意に低かった（ウイルコクソンの符号つき順位検定による）。他の検査値では有意な変動はみられなかった。【考察】冠心二号方がＴＡＴ値を正常化する作用があることは，凝固亢進状態を改善し，脳梗塞や心筋梗塞の予防につながるものと考えられる。西洋薬にもワーフアリンやヘパリンのような凝固亢進を抑制する薬物はあるが安全性，使いやすさの面からも冠心二号方のほうが有用度が高い。【結論】冠心二号方は血漿ＴＡＴ値が高値を呈する場合に内服させるとＴＡＴ値が低下する。したがって生体の凝固能が亢進した状態を改善し，梗塞の予防，治療薬として有用だと考えられる。

NII-Electronic Library Service